



調査レポート

2期連続の悪化

～売上高が下がり、採算の悪化が続く～

《採算(収支)》
採算状況を表す現在DI値は▲40・7と、前回調査から13・1ポイント減、2期連続の悪化という結果になった。3ヵ月後の先行DI値は▲38・6で、現在と比べ2・1ポイントの改善を見込んでいる。

《販売価格》
販売価格(受注価格)の現在DI値は▲4・6という結果となり、前回調査から2・3ポイントの下落であった。3ヵ月後の先行DI値は▲5・3で、現在と比べ0・7ポイント減を予測している。

《売上高(受注高)》
売上状況を表す現在DI値は▲28・7、前回調査から13・3の下落となった。3ヵ月後の先行DI値は、▲32・0と現在より3・3ポイントの下落を予測している。

【グラフ 採算(収支)】



【グラフ 販売価格】



【グラフ 売上高(受注高)】



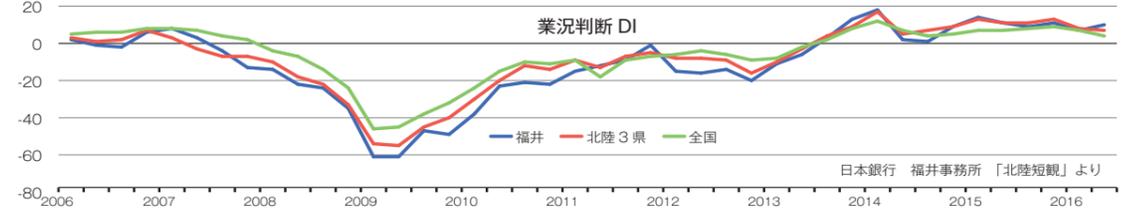
業種	前回調査と今回のDI値の比較				
	業界の景況	自社の景況	売上高(受注高)	販売価格(受注単価)	採算(収支)
全業種	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化
製造業	悪化	悪化	改善	改善	悪化
建設業	悪化	悪化	改善	悪化	悪化
卸売業	改善	改善	改善	悪化	改善
小売業	改善	悪化	悪化	悪化	悪化
サービス業	悪化	悪化	悪化	悪化	悪化

※青の塗潰しは改善を、赤の塗潰しは悪化を表している。
※DI値とは「良い」「上昇した」と回答する企業割合から、「悪い」「下落した」と回答する企業割合を差し引いた値。

平成28年4月～6月の福井商工会議所会員小規模事業所の景況感は総じてマイナスとなっている。今回の調査結果を見ると、売上高(受注高)が2期連続で減少し、売上高の減少が採算(収支)の2期連続の悪化を招いたと考えられる。

気になる統計 ここに注目!

調査レポートの結果を見ると、景況感が前回よりさらに悪化していることが見受けられます。全国的には景況感はどうに変化しているのか、今回は「日銀短観」をもとに見てみましょう。
過去10年の福井県・北陸3県・全国の景況感のDI値が下のグラフです。リーマンショック後に大きな落ち込みがあったものの、徐々に回復し、今ではわずかながらプラスとなっています。しかし、調査レポートでは景況感のDI値はマイナスのまま。調査対象は、当所が実施している調査レポートでは小規模事業所のみ、日銀短観には大企業が含まれます。企業規模による景況感の違いが表れた結果となっています。



●日銀短観とは…
日本銀行が行う上場企業や中小企業への業況調査「全国企業短期経済観測調査」のことです。企業の「マインドを集計した指標」で、様々な項目について「良い」「さほど良くない」「悪い」の3つから選択する方法を取ります。景況が「良い」と感じている企業から、「悪い」と感じている企業の比率を引き、DIという指数にして算出しているため、DIの数字がゼロより大きければ経済は拡大、マイナスのときは経済が縮小と考えられます。

《自社の景況》
自社の景況は、現在DI値▲31・0となり、前回調査より8・9ポイント下落した。3ヵ月後の先行DI値は▲34・8で現在より3・8ポイントの悪化を見込んでいる。

《業界の景況》
業界全体の現在DI値は▲49・2を示し、前回調査(H28・3期)から12・9ポイント下回り、2期連続の悪化となった。3ヵ月後の動向を表す先行DI値は▲50・6で、現状より若干の悪化を見込んでいる。

業種別に見ると、小売業は業界の景況以外の項目で悪化しており、建設業は売上高以外の項目で悪化している。さらに、サービス業は全項目において悪化している。
先行きについては、わずかに悪化の見通しとなっており、厳しい状況が予想される。

【グラフ 自社の景況】



【グラフ 業界の景況】



《自社の景況》
●調査時期 平成28年6月13日(月)～17日(金)
●調査方法 FAXによる送付、回収
●調査対象 福井商工会議所会員小規模事業所より 360件を抽出
●回答数 180件 (回収率50・0%)